

わたしたちの沖縄2018

県民の皆様とともに策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」。後期実施計画2年目となる2018年の沖縄県。過去から現在、そして未来の沖縄へ。県民が実感できる取組を着実に実施していきます。

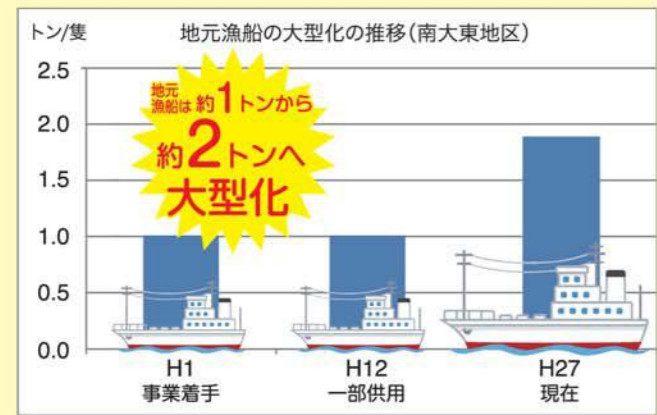
Think! ちよなーの未来をみんな考えてよう
沖縄21世紀ビジョン
沖縄21世紀ビジョン 検索

離島 南大東漁港(北大東地区)が開港 遠隔離島地域における漁港整備

南・北大東島は、周辺海域がマグロ等の好漁場であるにもかかわらず、防波堤に囲まれた安全な港がなかったため、小型漁船による零細な漁業を余儀なくされてきました。このため、県では大きく島を削り取る方法で、南大東漁港(北大東地区)の整備を推進し、同地区着工から11年目となる2018年、北大東地区が開港を迎えることとなります。2005年から本格供用している南大東地区では、既に漁船の大型化による漁業の効率化が進んでおり、今後、北大東地区においても同様の効果が期待されます。さらに、南北一対の漁港として風向きなどによって両地区を使い分けることで、周辺海域を操業する地区外漁船の長期安定操業も可能となり、水産物の安定供給と本県水産物の発展に大きく寄与することが期待されます。



北大東地区全景



離島 新県立八重山病院が開院 医療提供体制の充実



新八重山病院完成図

新県立八重山病院は、平成30年度の開院に向けて取り組んでいます。中核病院として可能な限り圏内で完結できる医療機能を生かし、患者や医療スタッフに優しく、将来の医療需要の変化に応じることができ、施設を目指します。また、大規模災害などに対応可能な医療施設も整備します。

生活 新沖縄県立図書館が開館 琉球・沖縄の「知と心 文化創造のランドマーク」

誰もが気軽に利用でき、県民に親しまれ、県民とともに成長・発展していく「知の拠点」を目指し、沖縄県教育委員会では平成30年度開館をめざして新館の整備を進めています。新館では施設面積が約2倍、図書資料の収蔵能力は約3倍となり、新たに移民コーナーや多文化コーナーも設置されます。ゆいレール旭橋駅やバスターミナルが連結する複合施設内に転移するため、交通アクセスも便利になります。



新県立図書館の内装イメージ図



生活 人、もの、情報の交流拠点完成 旭橋駅周辺地区市街地再開発事業

ゆいレール旭橋駅前が平成19年から行われてきた再開発事業が平成30年度に完了します。今年完成する北工区は地上11階・地下1階建てで、商業施設やオフィスに加え、県立図書館や観光案内所、グッジョブセンターおきなわなどが入居します。また新しいバスターミナルも開業しゆいレールの駅とが近接した交通の結節点となり、沖縄の玄関口として生まれ変わります。

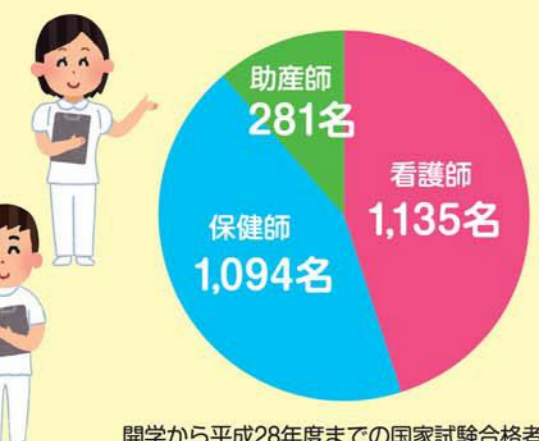


旭橋再開発北工区パース図



人材 沖縄県立看護大学開学20周年 地域に根ざした看護職者の育成

沖縄県立看護大学は、平成30年に開学20周年を迎えます。本学では、島しょ県に対応した看護分野の人材育成を目指しており、学部では全員が看護師と保健師の国家試験受験資格が得られるよう「統合カリキュラム」を導入しています。さらに、本県で不足している助産師を学部と別科助産専攻で育成するとともに大学院では、様々な分野の高度実践看護者や教育・研究者の育成を行っています。また、島しょ保健看護の教育や実践、研究を重ねるとともに、ハイウエ大学の交流等に取り組み多様な看護職者の育成をしています。国家試験受験資格合格者は、延べにして、看護師1,135名、保健師1,094名、助産師281名で、沖縄県の保健・医療・福祉分野で活躍しています。今後も、質の高い看護職者の育成、看護の教育、看護実践及び学術の発展に寄与し、豊かな社会づくりに貢献します。



人材 全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 開催300日前イベントの実施 2019年夏、南部九州4県でインターハイ開催!

来年7月に沖縄、鹿児島、熊本、宮崎の南部九州4県でインターハイ(30競技34種目)が開催されます。本県で開催される競技種目は8競技10種目で、選手・監督、大会役員、観客数など総勢約15万人以上が集う高校生最大のスポーツの祭典となります。この秋、県民の皆さんに南部九州総体2019をPRし、大会の成功に向けた気運の醸成を図る目的で、大会開催300日前イベントを実施します。2019年夏に、沖縄県で高校生アスリートが頂点を目指します。多くの県内高校生が参加する大会を県民一体となって応援しましょう。全国高校総体は、教育活動の一環として高校生に広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに、生徒相互の親睦を深め、心身ともに健全な青少年を育成することを目的としております。



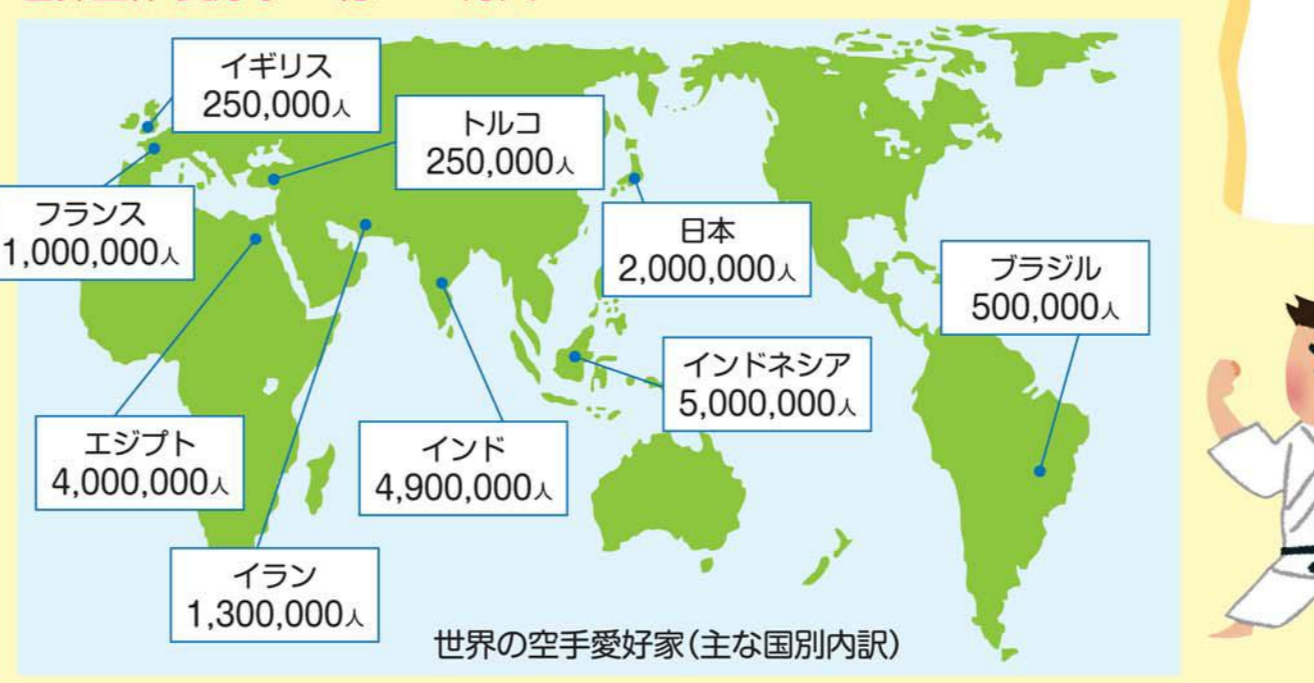
経済 航空機整備格納庫が完成 航空関連産業クラスターの核となる航空機整備事業が開始!

県では、アジアを中心に航空機整備需要が増大することを踏まえ、航空関連産業クラスター形成をアジア経済戦略構想の重点戦略と位置づけています。今年10月には那覇空港内に航空機整備施設が完成し、国内で初めて、航空機整備を中心とした産業集積の第一歩を踏み出します。航空機整備は機体そのものの整備、エンジンや装備品の整備など多岐にわたります。沖縄では、機体の整備が行われます。また、物流産業やIT産業、観光産業への波及効果も期待される絶好の広い産業であり、経済波及効果としては10年後に291億円/年、雇用効果として10年間の累計で1971人と試算されています。今後、アジアのニーズを取り込み、沖縄の人材が活躍する新たな産業として成長、発展するよう、後押ししていきます。



伝統 第1回沖縄空手国際大会を開催 世界中の空手愛好家が空手発祥の地「沖縄」へ集結

沖縄の貴重な文化である沖縄空手の振興、空手愛好家の交流促進を図ることを目的に第1回沖縄空手国際大会を開催します。大会を通して、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するとともに、「平和の武」ともいわれる沖縄空手の魅力を県民が再認識する場を創出します。



人材 おきなわ技能五輪・アビリンピック2018の開催 本県初開催、技能者たちの頂上決戦

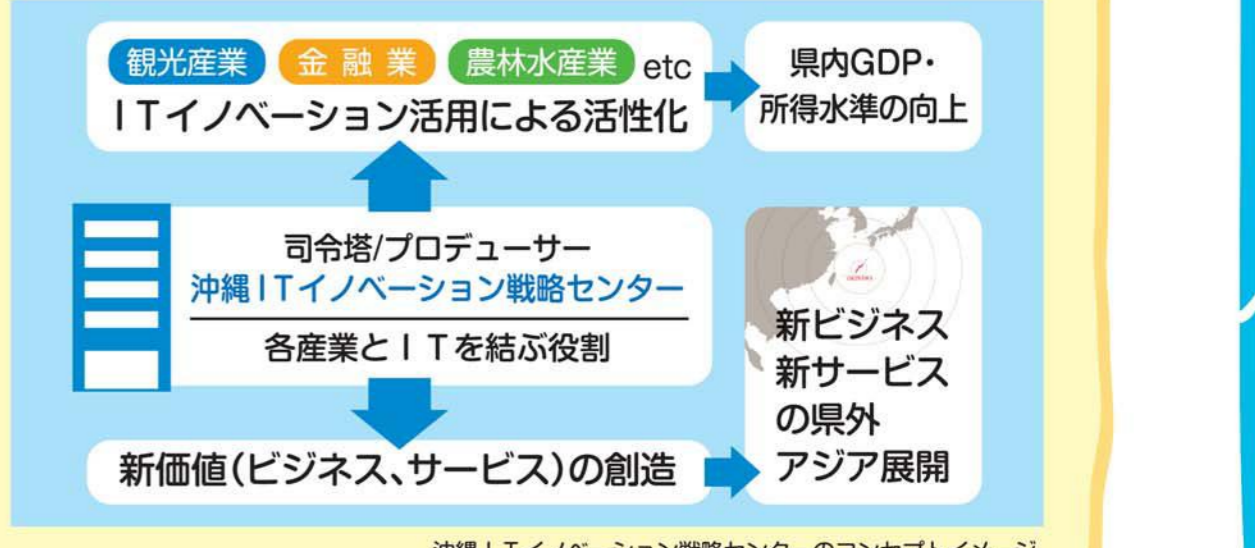
両大会の開催は、県内の技能水準の向上及び産業の高度化に寄与するだけでなく、次代を担う子供たちが、働くことの意義や喜び、技能の持つ大きな可能性を発見し、社会に貢献する生き方を学ぶ機会になります。昨年の技能五輪・アビリンピック(とちぎ大会)では、沖縄県から過去最多の12名の選手が入賞し、技能五輪のレストランサービスマン種目では磯部千尋さん、アビリンピックのフラワーアレンジメント種目では山口未鈴さんが銀賞を受賞し、沖縄の高い技能レベルを広く知らしめました。



レストランサービス職種競技の様子

経済 官民一体となった「沖縄ITイノベーション戦略センター」を設立 ITを活用した産業成長の司令塔

県においては、ITの活用により県内産業全体の生産性と国際競争力の向上を図るため、官民一体となった「沖縄ITイノベーション戦略センター」を平成30年度に設立します。本センターが中心となって新たなビジネスやサービスを生み出すとともに、国内外から人材、企業、先端技術などのITイノベーションを積極的に呼び込み、県内産業や社会生活に波及させていきます。本センターが産業連携の司令塔となり、IT利活用の推進や県内産業の成長、社会課題の解決などを力強く推進していきます。



経済 企業集積施設4号棟供用を開始 沖縄IT津梁パークに新たな企業集積施設

県では、情報通信関連産業の集積拠点を目指して、沖縄IT津梁パークにおいて、企業集積施設を整備しております。平成30年6月には、企業集積施設4号棟が供用開始となり、雇用者数約600人の民間企業が入居する予定です。今後はますます、県内雇用の拡大や高度IT人材の育成等が期待されます。



企業集積施設4号棟のイメージパース

平和 第9回沖縄平和賞授賞式を開催 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承

「沖縄平和賞」は、平和を希求する「沖縄の心」を世界に発信するとともに、国際平和の創造に貢献することを目的として、平成13年に創設されました。授賞式は、2年に1回行われ、沖縄と地理的・歴史に関わり深いアジア太平洋地域の平和の構築・維持に貢献する活動を行っている個人・団体へ贈られます。沖繩はかつて、琉球王国時代に「万国津梁」いわゆるアジアの国々をつなぐ架け橋として活躍した時代があり、多様なものを受け入れる寛容さや相互扶助の精神で近隣諸国と平和に交流してきました。しかし先の大戦において、多くの尊い命と貴重な文化遺産を失い、平和の尊さを肌身で感じており、恒久平和の実現を強く求めています。私たちは、沖縄平和賞をとおして、平和の構築・維持に貢献する活動を支援することにより、沖縄が、アジア太平洋地域の平和交流拠点となることを目指していきます。

- これまでの沖縄平和賞受賞者
- 第1回(平成14年) 中村哲を支援するベジャワール会
 - 第2回(平成16年) 特定非営利活動法人 アムダ
 - 第3回(平成18年) 沖縄・ラオス国境毒品密売被害者支援センター
 - 第4回(平成20年) 特定非営利活動法人 難民を助ける会
 - 第5回(平成22年) 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会
 - 第6回(平成24年) 特定非営利活動法人 ジャパンハート
 - 第7回(平成26年) 特定非営利活動法人 ジャパンハート
 - 第8回(平成28年) 認定NPO法人 難民支援協会